No.165
2011.
3.15

岐阜の博物誌

編集兼発行
〒501-3941 関市小屋名
（岐阜県百年公園内）
岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL 0575-28-3111

日本土鈴館ギネス認証世界一
感動して居ります

日本土鈴館　館長　遠山　一男

昭和62年に郡上市白鳥町（当時郡上郡白鳥町）に『日本土鈴館』をオープンしました。

展示物は私が趣味で集めた全国各地の土鈴です。『土鈴（どれい）』とは、字で読むとおり「土でできた鈴」のことです。土鈴はどこの家庭でもお土産や社寺の授与鈴として幾つかお持ちのことと思いますが、私は土の種類、焼き方、かたちの違いで一つ一つが違う音色のする「土の鈴」にひかれ収集するうちにその数一万点を超え、ついに平成22年8月2日『世界一』の記録を集めた本の出版で有名なイギリスのギネス社に申請、認証を得ることが出来ました。来館のお客様やマスメディアの方によく「一番好きな土鈴とか、値の張る土鈴はどれですか？」と聞かれますが、私にとっては16,040個のコレクションすべてに思い出があり優劣つけがたいのが正直な気持ちです。

特筆すべきは、昭和の初めの頃『土鈴ばやり』というブームがありまして、そのころは需要があるから職人も手塩をかけて技を見せ合う、というような古き良き時代でした。その当時の土鈴が3,600点余りございまして、これらは私の自慢というより「日本の文化」の自慢と言っても過言ではないのでは、と常々思っております。昨今のように大量生産もせず、勘定高くもなく職人自らも楽しんで製作していたのであろうと思われる逸品ぞろいです。また、郷土の民芸品として作られていた土鈴には、その土地のぬくもりと郷愁があります。中でも愛知県の「起土人形」の【蚕鈴】は岐阜市の美江寺観音さんの授与鈴として作られていたものです。かつて養蚕が盛んだった頃、ネズミよけとして蚕室にこの鈴をぶら下げ蚕の生育を願ったという福鈴です。

こういった郷土色ある土鈴も後継者不足により年々数が少なくなっていくのが残念です。他にも私が夢中で土鈴を集めていた頃知り合うことが出来た、全国の大勢の「土鈴愛好家」の方の作品は、何物にも代えられない宝となっています。その仲間と毎年1度集い、情報交換をして親交を深めるのも私の生きがいの一つです。

このような伝統ある工芸品とも言える土鈴は個人で保存しておくにはなかなか困難なものです。そのほとんどが一品ものだったり作者が他界して後継者がいなかったりと貴重品が多く、焼き物故に、落とすとヒビが入ったり、最悪粉々に割れてしまうこともあり神経を使います。ですが、この数多くの土鈴のコレクションを保存するうえで展示して一人でも多くの方にご覧いただければ幸甚であると思います。

実は、私は元々好奇心旺盛で収集好きの性格のためこの土鈴に限らず、こけし・土人形・おもちゃ・郷土玩具・お土産品のミニ提灯なども収集しており、すべて含めると日本土鈴館全体のコレクションの総数は6万点以上にもなります。来館のお客様も皆さん「よくぞここまで集めましたね」とおっしゃいますが、あまりの展示品の多さにポイントが絞りきれないのも否めない事実です。今後は、効率よく見学でき、印象に残る展示が出来るよう心がけるのが課題です。そして、土鈴に限らず郷土玩具や民芸品を通して日本の文化を残し継承していくのに一役買えたらば、と八十歳を超えた今日も夢を描いております。

【蚕鈴】

第58回全国博物館大会に参加して

期　日：平成22年11月24日・25日
会　場：奈良県新公会堂

第58回全国博物館大会は、「歴史文化と博物館ー1300年の時空を探求ー」を大会テーマに据え、平城遷都1300年祭を迎えた奈良県において開催されました。大会には岐阜県からの4名を始め、全国から約300名の参加がありました。会場は古都にふさわしく、若草山と春日神社の間に立つ奈良県新公会堂の能楽ホールで行われ、開会式には「せんとくん」も登場し、会の輝きを増してくれました。

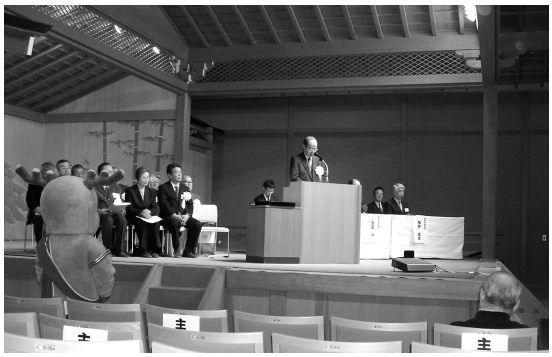
一日目は開会式、表彰式の後、文部科学省、文化庁から行政報告が行われましたが、主に博物館法の改正とそれに伴う諸課題、博物館の設置及び運営上の望ましい基準、博物館の行動規範について説明がありました。また、重要文化財等の盗難や運送時の毀損事故などが相次いでおり、注意するよう話がありました。

午後の最初は、シンポジウム「文化遺産と自然遺産の保存と活用」が、菅谷文則奈良県立橿原考古学研究所長、岡田保良国士舘大学教授、岡本彰夫春日大社権宮司により行われました。岡田氏からは世界遺産に関わられている経緯から、岡本氏は春日大社の式年造替などから、文化財をどこでどのように守り、あるは展示公開すべきか、その時に何を考えなければならないかお話いただきました。印象的だったのは、仏像は本来宗教のためのお祈りするための像であり、奈良国博では、博物館の展示室の中で、読経もできるというお話でした。

その後「奈良時代に学ぶ～歴史文化と博物館」と題して、西山厚奈良国立博物館学芸部長から特別講演が行われました。「東大寺はなぜ作られたか」「なぜ光明子は正倉院に宝物を寄贈したか」「なぜ鑑真は日本まで来たか」など興味深い事項をわかりやすく紹介いただきながら、奈良時代から学ぶべきことを特別展でどのように伝えたか、まさに大会テーマにふさわしい講演でした。

二日目は、「地域の活性化と博物館」と「博物館と倫理規程」の2本のパネルディスカッションが行われ、筆者は前者に参加しました。まず大阪市の平野郷HOPEゾーン協議会長からは「町ぐるみ博物館」による町おこしの実践報告がなされました。次に、滋賀県長浜市曳山博物館から、長浜市の博物館都市構想に基づく開館と経営状況について報告がありました。その後、奈良県NPO法人うちのの館から、「登録有形文化財藤岡家住宅を拠点とした地域文化の発信と交流」と題して報告がありました。いずれも地域の文化財の保存を進めながら、資源を活かし、地域の活性化につなげられた実例でした。共通することは、地域の活性化は住民が中心となってやっていくことが基本だという考えと実践であったことです。

午後の閉会式では、博物館寄託者への相続税猶予、美術品の国家補償制度や、国の博物館施設整備助成の復活などを掲げた大会決議を採択し、来年度の開催県である石川県立美術館長の挨拶がありました。その後2コースに分かれた施設見学が行われ、有意義な二日間の大会を終えました。



<能舞台で行われた開会式典と、
大会を盛り上げたせんとくん（左下）>

（岐阜県博物館 館長　石田　克）

第76回岐阜県博物館協会　会員研修会
「岐阜県内の博物館活動から」

期　日：平成22年11月30日（火）
会　場：光記念館
参加者：22名

第76回博物館会員研修は高山市内の光記念館で行われました。今回は3名の方々に活動報告をしていただきました。

ハートピア安八の高橋昭裕学芸係長は「博物館と心理学」と題して「21世紀は脳の時代といわれ、博物館活動にも心理学的要素を取り入れた活動が必要。人の心理の仕組みを理解しつつ掲示物の工夫や学習意欲向上などへの幅広い応用が必要」と提案されました。**ミュージアム中山道**の小栗幸江館長は「私設館の役割と地域への文化発信」として「親子参加の体験教室の推進と発表の場の提供、地域の要望に応えて美濃歌舞伎博物館相生座で活動を支援。私設博物館ゆえの様々な制約を克服し、現在では文化活動の拠点として活動している。」と、地域との友好的な支援関係に至る経緯を報告されました。**飛騨民俗村・飛騨の里**の西倉憲司代表取締役は「指定管理者としての施設の管理・運営について」において「運営は厳しい状況にあるが民間経営の利点を活かした特徴づくりの推進。飛騨の里を眺めるだけではなく、年間を通じて様々な地域文化を体感できる仕組みづくりの実践」について報告していただきました。見学会では光記念館展示室と教育普及活動について説明を頂きました。

博物館活動では「利用者側の視点に立った手法や運営」「地域と文化活動における相互関係の構築」の重要性があり、また「経費の捻出や節減」の工夫の必要性など有意義な講演となりました。なお光記念館の御好意により、最新LED照明を導入した展示ケースの見学と説明を頂きました。

（岐阜県ミュージアムひだ　柏木賢一）

平成22年度地域博物館等
活性化支援事業報告
－多言語による施設紹介パネルの製作－

岐阜県博物館協会岐阜地域活性化委員会では、平成21年12月から多言語による施設紹介パネルの製作を開始しました。

これは近年増加する外国人来館者のために、加盟館の概要を英語、中国語、韓国語、ポルトガル語の4ヶ国語で表記するパネル（B2サイズ）を掲示することで外国人来館者へのサービス向上に努めようというものです。またパネルの内容をディジタルデータにして加盟館にお渡しし、ホームページ等で利用いただけるようにと考えました。

製作は翻訳作業に手間取り、完成がかなり遅れてしまいましたが、約1年がかりでなんとかこの事業を終了することができました。この間、各加盟館さんには原稿の作成等でご協力いただいき、本当にありがとうございました。出来上がったパネルやデータは有効にご活用いただき、各館の魅力をさらにアピールしていただきたいと思います。

この事業で筆者は、加盟館のいくつかにお邪魔して、打ち合わせや館の写真撮影をさせていただきました。初めて見学させていただくところばかりで、この狭い地域にかくも様々な博物館があることに驚くとともに、大いに勉強になりました。館の設立当時の逸話や現在の活動を熱心にお話しされる館長さんの姿に、館への愛情や情熱を感じました。

このように他館と交流できたことは、いいい思い出となっています。

（岐阜県美術館　谷口輝己）

第124回岐阜県博物館協会公開講座報告

期　日：平成22年9月23日（金）14：00～
会　場：美濃加茂市民ミュージアム　緑のホール
参加者：50名

博物館･美術館の活動としての、アーティスト･イン･レジデンス、ワークショップといった事業は、多くの館が取り組むところです。当館でも毎年「芸術と自然」をテーマとした滞在制作、ワークショップ、展覧会を行う事業を開催しており、今年は富山市在住の作家･川井昭夫氏を紹介しました。関連事業として、作家をよく知る大阪･国立国際美術館館長の建畠氏との対談を開催しました。

川井氏は素材・モチーフとして「自然」を常に意識してきた作家です。話題は川井氏の絵画論から始まり、「人と自然」の関係性、今回博物館の敷地内で作られた屋外でのインスタレーションに及びました。

作家が滞在して作り始め、ワークショップとしてボランティアらとともに完成させた「おおばこの軌跡」という作品は、おおばこの生える森の広場の中央に鉄の棒を立て、そこから伸びるひもを持ち歩くことで、踏み分け道が円形に現れるというものでした。川井氏からは作品のコンセプトや制作の過程についてお話いただき、建畠氏からは実際に制作を体験した感想を語っていただきました。

見ているだけでは感じられない心地よさ、驚きなど体験した感激が伝えられ、博物館の様々な場面で取り組みが続けられている「五感を使って体感すること」が野外でのアート作品制作の現場で実現できることがわかりました。展示室だけではなく周りの環境や自然を「場」として活かす活動の可能性がみえてくる対談となりました。

（美濃加茂市民ミュージアム　可児光生）

岐阜県博物館協会設立45周年記念 白山文化講演会の開催（ご案内）

岐阜県博物館協会では平成18年度から博物館活動の活性化のため民間企業（（財）田口福寿会、十六銀行、大垣共立銀行、岐阜信用金庫）の助成金を得て、各館の外国語による紹介事業や危機管理調査研究事業など地域ごとに各種活性化事業に取り組んで参りました。

助成金の最終年度となる22年度においては、全県的な事業として岐阜県の歴史･文化に深く関わり、昨年6月に開催された「全国豊かな海づくり大会」を契機とし「清流の国づくり」を目指す岐阜県の取り組みとも軌を一にするものとして、白山文化の発信事業を行うこととなりました。なお、岐阜県は白山神社の数が全国最多です。

この事業を推進するため、若宮会長以下6名の委員で白山文化発信事業推進チームを設置し鋭意検討がなされて来ているところですが、発信力のある講師をお招きするため、実施時期が23年度にずれ込んだことをお断りしておきます。

本年2月末までの検討の結果、以下のとおり事業概要がまとまりましたのでご報告します。チラシ、申込書等につきましては出来次第配布させていただく予定ですが、ぜひ、皆様お誘い合わせのうえ、ご参加くださるようお願い申し上げます。

なお、この事業との関係で23年度の岐阜県博物館協会総会は岐阜市の「じゅうろくプラザ」で行う予定としておりますのでご承知ください。

【白山文化講演会概要】
・日　時　　平成23年6月4日（土）
　　13:30～16:00
・場　所　　じゅうろくプラザ　ホール
　　（JR岐阜駅隣接）
・講　師　　山折　哲雄（宗教学者、評論家）
・演　題　　白山文化とは何か
・アトラクション　　白鳥拝殿踊りの実演
・入場料　　無料
・対象者　　岐阜県博物館協会会員及び一般県民

（岐阜県博物館協会事務局長　井上幸治）